

三省堂中学国語教育

ことばの学び

「現代の国語」
教材ガイド

No.5

2年談話教材

達人のことば

宮大工 西岡常一 / 彫刻家 外尾悦郎

【コラム】染織家 藤井 繭子 p.03

！教科書訂正のご案内を掲載しています。(p.11)

三省堂



達人のことば

宮大工 西岡常一

彫刻家 外尾悦郎

教材の特徴／学習指導のポイント

★ 《法隆寺の宮大工》 《サグラダ・ファミリアの彫刻家》

— 東西の世界遺産の継承と創造に携わる
達人たちのことばの響き合い

● 「読み比べ」「小見出しづくり」などの読解活動において、論理的な思考の方法を自覚化し、活用する。

★ 《先人の知恵を受け継ぐ》 《試行錯誤を繰り返す》
《無心無欲無我》

— 世代から世代へ仕事をつなぐ
達人たちの働き様と哲学

● テキストおよびクラスメイトとの対話・交流をもとに、ものをつくること、働くことの本質を捉え、ものの見方や考え方、仕事観、人生観を育む。

Design 宮内 佑

本教材は、日本とヨーロッパで寺院建築に携わる宮大工棟梁と主任彫刻家による2つの談話で構成されている。達人たちのことばに表れた、仕事の技、仕事への向き合い方、自然や人間に対する見方・感じ方・捉え方を読み深めていく学習活動が期待される。

読み比べは、「対比」「関連づけ」などの思考(方法)を自覚化しながら取り組むことで、他教材や他教科の学習において、また日常生

活・社会生活のさまざまな場面において活用可能な汎用的思考力を培う学習として位置づけられる。章段に小見出しをつける活動は、具体と抽象、部分と全体の関係を捉える力、事象を概念化する力、要約力、語句の置き換えや選択力等の育成に資する学習となる。

言語技能育成の学習を、談話の内容的価値を生かしたキャリア教育と関連させるなど、多角的、統合的な学習活動を想定したい。

聴くこと、
つなぐこと



染織家
藤井 繭子

からだの奥のほうから静かにわきあがってくる懐かしさ。安堵感あんど。それまで自分の中で眠っていて気づかなかったものに初めて触れたという感覚。志村ふくみ先生の作品に出会ったときの感動は、私がそれまでに味わったことのない種類のものでした。

原始の時代、野に咲く花や木々がつける実の色は、ひとときわ目立つ美しさで人々の目と心を惹きつけていたに違いない。太古の人たちの色に向けられた思いが現代に生

PROFILE

ふじい・まゆこ

染織家。1972年、東京都生まれ。東京造形大学卒業後、東京都に移り、紬織重要無形文化財保持者・志村ふくみ氏と長女・洋子氏に染織を学ぶ。2000年、鎌倉にて独立。2014年、山梨県北杜市に拠点を移し現在に至る。

ウェブサイト
<http://mayuko-fujii.jp>

きる私のところにまで届いている。私たちはずっとつながっているんだ……。それは人と色との根源的な関わりに気づかされた瞬間だったのだと思います。

学生時代のこの体験が、私を「草木で染めて織る」染織の仕事に導くものとなりました。

*

「染め」の仕事は、野外で、植物を観察し、採取する活動を含め、からだを使って動き回ります。「織り」の仕事は、室内で、ひとところに何時間も座って、シンプルな動作を繰り返します。

外と内、動と静という、対照的な性格の二つの仕事を両方できるのが、染織家のいいところだと思っています。

*

同じ植物でも、風土によって、年によって、採取する時期によって、色はすべて異なります。「何リットルの水に、何グラムの植物を入れて、何十分煎せんじる」といったマニュアルはありますが、それだけでは通じない世界です。経験はやはり大きいですね。

それでも、積み重ねてきた経験によって「正解」と考えていたことがひっくり返されたり、行き詰まったりすることはよくあること。そうした時は、先人から受け継いできた知識や技術をあ

らためて振り返り、勉強します。

学び直していると、それまでは見逃していた大事な点に気づかされ、植物に対する親しみも深まります。こうした気づきや親しみは、感性を育ててくれます。

よく、感性とかセンスというものは生まれつきのものと考えられますが、感性は、自分が育てて磨いていくことのできるものです。

感性が鋭くなると、はじめてのことでも、「もしかしたらこうするといいかもしれない」という対応力がついていきます。

知識と技術、経験、感性——私の仕事の中ではそれぞれが常に関わり合っている。この関係はこの先も変わらず続いていくと思います。

*



仕事はむずかしいです。ずっとやってきていても、「これでよし、完璧にできた」ということはありません。だからこそ、こうして続けていられるのかもしれない。

*

人間側の理想を植物に求めて、「こうじゃない、こうじゃない」と修正を加えて染め重ねていくうちに、どんな色が濁っていつてしまう。それは、渋さや暗さとは違い、染める人間の雑念が入った「濁り」です。

今、目の前にある植物のいちばんいい瞬間を逃さず、余計な思いや行動、技法のむだをなくして、無心で染めていく。そのほうが、その時の植物がもっている色そのまま糸に写しとることができる。そうして染めた糸は「透明感」をもっています。



藤井さんの工房の染料棚。枝や乾燥させた草、堅果などを保管している。

自分の知識や技術に対する評価は大事ですが、あらわれた色については、「いい色、いい色ではない」という評価はしません。染まった糸を眺めて、その色を生かして「どんな縞を立てようか、これをどんな色と合わせようか」——そう考えながら織っていきます。

*

人間が織る布には、織る人の情感、心がうつり、機械が織るものとは違った味わいやあたたかみがあるものです。

といっても、私の場合は、反物たんものという、長さのあるもの（約一三メートル）を二週間から一ヶ月かけて織っていくので、その日その時の気分が「むら」となって出てしまわないように、自分の身に起こる日々のできごとをできるだけ自然体で受けとめ、平常心を心がけて、機はたに向かいます。

*

「染め」にしても「織り」にしても、自分が表に出過ぎないほうがいいと思っています。

「染め」に関していうと、自分を表現しようという思いや欲があると、植物そのものの色、透明感のある色が出にくいという過去の経験があります。

もし、私の仕事に個性というものがある

クルミ、胡桃、白木蓮で染めた絹糸。



としたら、自分を消して植物を生かすという行為の中で生まれてくるものだと思います。

「織り」に関しても、私自身は、作品性を表に出した「作家」としてよりも、植物とスキものを着る人として「つなぐ人」でありた

イチイ ヨモギカヤス アイ クサギ
草木で染めた絹糸。上右：一位、上左：蓬、刈安、ミント、下右：桜、下左：藍、臭木。



いという思いがあります。
植物から色をいただいで糸を染め、その糸で布を織る。その布できものがつくられ、それを人がまとう。草木の命を人の生に色として残したい。草木の自然の営みと人の暮らしとをつなぐ存在でありたい。そういうところに私の使命があるのでないかと。
草木がその内側に蓄えた色で糸を染めるように、きものも、その人の内面の美しさを引き出すものであってほしい。そう願っています。

中学生の時は演劇部でしたが、表に出て



スポットライトを浴びるよりも、演じる人が引き立つようなものをつくる、演じやすいように舞台まわりを整える、大道具・小道具などの裏方としての役割が自分にはあっていると感じていました。当時は、染織家という職業を知らなかったのですが、私にはこの仕事がぴったりなのかもしれません。

耳を澄まして草木の声を聴く。力を抜いてリラクセスして、全身の感覚を研ぎ澄まします。

私が暮らす八ヶ岳山麓では、植物の命の循環をしっかりと感じる事ができます。とくに冬は、土から樹幹から、植物たちが内側に秘めた力、表には出ないけれども確かに存在する力を感じます。

この世界は分断されたものではない。ずっとつながっている。植物も人間も同じ時間を生きて命をつないでいる。草木の声を聴いていると、このことを実感します。

失敗をチャンスととらえて、次に向かう気持ちには大事です。失敗をおそれて行動を起こさないのは、先の世界へと進む好機を失うことにもなってしまう。

でも、やみくもにあがいたりもがいたりしても、逆にますます深みにはまっています。



藤井さんの使っている織機。採取や染めの仕事がない日中は、ほとんどの時間を織ったり、糸を巻いたりして過ごすという。

てしまうこともあります。
そうした時には、いったん立ち止まって、自然の中に身を置いて、自分の声に耳を澄ませる。声が聴こえてくるまで待つ。そういうことがあってもいい。そんなことも、染織家という仕事を通して学んだことのひとつです。

*二〇一七年一月二九日、山梨・藤井繭子さんの工房にて取材

(構成・編集部)

達人の ことば

平成28年度版中学校国語教科書
『現代の国語 2』

達人のことば 1

宮大工 西岡常一



木も人間もみんな
自然の分身ですがな。
お互い等しくつきおうて
いかなあきませんわ。
(P 183 L 15)

どんな有名なお寺
見てもらっても、
棟梁の名前なんて書いて
ありませんでっしゃろ。
自分が自慢になるから
せなんだんや。
(P 186 L 10)

木のクセを見抜いて
うまく組まなくては
なりません、
木のクセをうまく
組むためには人の心を
組まなあきません。
(P 185 L 6)

達人のことば 2

彫刻家 外尾悦郎



夢中で仕事を
しているうちに、
時間がたつのを忘れ、
周囲の音も
聞こえなくなり、
石を打っている自分の
肉体の感覚さえ
なくなってくる。
(P 192 L 3)

私が石を刻む過程、
仕事をする工程は、
それ自体が探求です。
(P 192 L 11)

外尾悦郎(そと おえつろう) 彫刻家。福岡県の生まれ。1953(昭和28)年—彫刻家、福岡県立教会の主任彫刻家。スペインのサグラダ・ファミリア(聖家族教会)の主任彫刻家として、石を彫った。心臓を患う。中学・高校の美術教師などを経て、石を彫りたい一心で単身ヨーロッパに渡り、25歳でサグラダ・ファミリアの彫刻家として就任。以来、数々の作品を手がけてきた。著書に、『バルセロナ石彫り修業』『ガウディの伝言』などがある。

ひとめで
みえる

授業展開 アイデア

※ここでは発問を中心に構成しています。また、学習指導書とは別の展開例を紹介しています。



1.2時

発問 《導入》

これから読むのは、この建物（※法隆寺金堂または薬師寺西塔の写真を提示）と、この建物（※サグラダ・ファミリアの写真を提示）に深く関わりのある、二人の「達人」のお話です。みなさんは、これらの建物について、どのようなことを知っていますか？

ポイント

- ここでは、達人たちまつわる「建物」から入っているが、『宮大工』『石彫り職人』と書いた文字カード、または二人の人物写真を提示して「人物」から入る方法、あるいは、『達人』ということばから思い浮かぶものを出し合います」といざなうなどの「職業」から入る方法もある。
- 客観的な情報提供にとどまらず、授業者が自分の思いや体験を語ることも効果的である。また、詳しい知識や体験を有している生徒がいれば、その生徒に解説や紹介を譲ることや、グループで既有知識や体験を交流する場を設けるなど、生徒やクラスの実態に応じて行いたい。

発問

文章のまとめりに小見出しをつけましょう。

学習目標 学習指導要領対応項目

- 二つの文章を読み比べ、共通点と相違点を考えながら、内容を読み取る。
- 達人たちのことばに表れたものの見方を捉え、仕事や生き方について意見をもつ。

評価規準

- 国語への関心・意欲・態度
- 二つの文章を比べて内容を読み取ろうとしたり、仕事や生き方について意見をもとうとしたりしている。
- 読む能力
- 二つの文章を読み比べ、共通点と相違点を考えながら、内容を読み取っている。
- 達人たちのことばに表れたものの見方を捉え、仕事や生き方について意見をもっている。
- 言語についての知識・理解・技能
- 話しことばと書きことばとの違い、共通語と方言の果たす役割などについて理解している。

ポイント

● 小見出しの役割が、あるまじりとして書かれた部分について、

▼「内容を短い時間で読者に伝えること」

であること、そのときに、

▼「読者を読みたい気持ちにさせること」(関心意欲の喚起)

もあわせて受け持つ場合が多いことを押さえておく。

● 小見出しのタイプとして、

〈A〉直球型(質実剛健・明示タイプ) / 〈B〉変化球型(技巧・暗示タイプ)

の二つがあることを提示しておきたい。

● 小見出しに用いることば(表現)として、

〈ア〉(主に)本文のことばを使う方法 / 〈イ〉(主に)本文にないことばを用いる

方法があることを提示する。〈イ〉の作業は「具体↓抽象」の思考力、言い換えのた

めの語彙力をより求めるものとなる。

* 小見出しの例 最初の章段(教科書P183、P191)

【西岡氏】ヒノキのよきに千三百年前の人は気づいていた(A+A) / ヒノキのすごさ

×古人のかしこさ(A+イ) / 木いうたらヒノキですがな(B+A) / 千三百年が支え

る千三百年(B+イ)

【外尾氏】すばらしい出会い(A+A) / サグラダ・ファミリアと私(A+A) / サグラダ・

ファミリアに育てられた私(A+イ) / 自分自身こそが探し続けてきた石だった(B+A) /

運命の出会い(B+イ)

発問

二つの談話を読み比べ、共通点と相違点を取り出して、ベン図に表してみよう。

それぞれの談話の中から、「対比」「原因と結果」「具体と抽象」の関係を取り出して、図に表してみよう。

ミニ情報

宮大工とは

神社や寺などの建築を専門に行っている大工。国宝や重要文化財などの修復を行うこともある。

宮大工の歴史

宮大工の歴史は飛鳥時代までさかのぼる。当時建てられた法隆寺は、千年以上の時を経てもなお健在で、世界最古の木造建築として注目されている。

求められる技術・知識

神社仏閣の修繕のほかにも、修繕に使用する木材の加工や図面の作成も宮大工自身が行う。また、建築技術に加えて、その土地の地質や気候、文化や歴史などについての知識と理解が求められる。

宮大工になるには

建築関係の学校に通う、宮大工が勤める工務店に弟子入りする、などの方法がある。宮大工になるための特別な資格はなく、徒弟制度の中で師匠から直々に技を受け継いでいく。一人前になるまでに、少なくとも十年程度はかかるともいわれている。

ポイント

- 対比や比較という思考では、共通点と相違点の両方を考えることを押さえる。
- 比べるとき「観点」を考えることで、抽象化・概念化の力も培いたい。
- ▼ 木／石 ↓ (扱う素材)
- ▼ 日本／スペイン ↓ (働いている国(場所))
- ▼ 寺／教会 ↓ (建てているもの)
- ▼ 仲間と働く ↓ (働き方)
- 当誌掲載の藤井蘭子氏の談話を合わせて活用することもできる。
- 【対比】 染め ↓ 織り 濁り ↓ 透明感
植物 ↓ 人間 役者 ↓ 裏方
- 【原因と結果】 雑念が入る ↓ 濁る
- 【具体と抽象】 仕事は難しい (抽象)
↓ マニュアルが通じない (具体)
↓ 無心になる必要がある (具体)

対比の関係

外尾氏	西岡氏
計算・配慮 ↓ 意識・没我	ヒノキ ↓ 松・杉
実際の弦 ↓ 想像の弦	人間 ↓ 木
彫刻の完成 ↓ 本の完成	昔 ↓ 現代
答え ↓ 疑問	中国 ↓ 日本

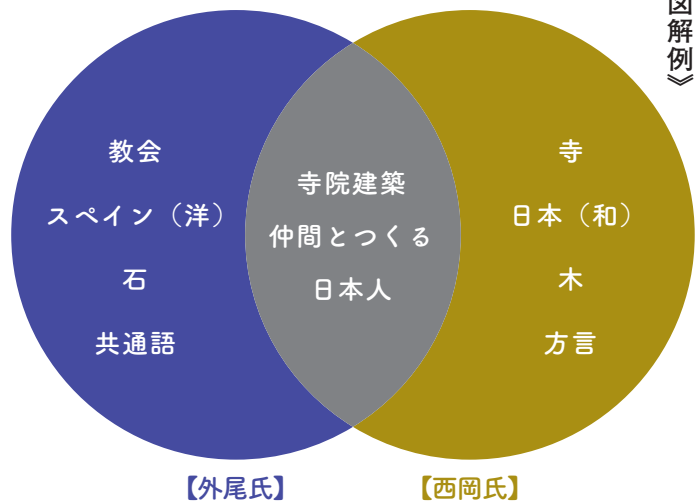
原因と結果の関係

外尾氏	西岡氏
見る人の想像力が失われる	長く残る堂塔がつかれない
ハープに弦を張る	長い樹齢の木がなくなった
	むやみに木を切った
	夢殿は軒先が長い
	日本は雨が多い

具体と抽象の関係

外尾氏	西岡氏
天使像	現代の建築と飛鳥時代の建築
書物	仏宮寺と法隆寺
文化とは、作り手と受け手がいて成り立つもの	文化とは、風土に応じたものを取り入れ、独自の工夫をすること

《図解例》





4・5時

参考

新学習指導要領(平成29年3月公示)の「中学校国語」において新設された「知識及び技能」の(2)「情報の扱い方に関する事項」には、次の内容が示されている。

ア「原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。(第1学年)」「意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。(第2学年)」「具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。(第3学年)」

イ「比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。(第1学年)」「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。(第2学年)」「情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。(第3学年)」

発問

いろいろなジャンルの仕事の「達人」について調べて、「達人紹介」や「名言集」をつくりましょう。それらをもとに、「働くとはどういうことか」という問いをめぐってグループディスカッションを行いましょう。

ポイント

- 「工業」「商業(飲食業、流通業、通信業ほか)」「農林漁業」「福祉・医療」「政治」「芸術」「科学技術」「スポーツ」「エンターテインメント」「教育」「研究」などのカテゴリーをあらかじめ用意しておき、それらを意識しながら進めることは、キャリア学習の観点からも有意義である。分野別、人物別などでグループを構成して取り組むこともできる。
- 「仕事観」「キャリアプランニング」にまつわるディスカッションにおいては、「ワールド・カフェ」形式を用いることも考えられる。

↓「現代の国語3」ワールド・カフェ——問いをもとに語り合う(P181)

↓デジタル教科書「現代の国語3」ワールド・カフェ *解説動画



関連図書・資料

- 「木に学べ——法隆寺・薬師寺の美」西岡常一著
小学館 2003年
*宮大工の棟梁として、木の心を知り、木とともに生きてきた西岡常一。職人の心構えや技、法隆寺や薬師寺について語った一冊。
- 「サグラダ・ファミリアガウディとの対話」外尾悦郎著 宮崎真紀訳
原書房 2011年
*彫刻家外尾悦郎が、スペイン人の写真家による二〇〇点以上のカラー写真とともに、世界遺産サグラダ・ファミリアでの仕事、ガウディへの念いを綴る。

- 「10代のための座右の銘」大泉書店編集部編
大泉書店 2015年
*歴史上の人物から現在も活躍している人物まで、10代の心を揺さぶる二九六の偉人たちの名言が、エピソードとともに集められている。

次号予告

3年俳句

「俳句の世界／俳句十句」



平成28年度版 中学校国語教科書『現代の国語』

訂正のご案内

平成29年度用 中学校国語教科書『現代の国語』に訂正がございます。
以下の訂正につきましては、すべて文部科学省の許可のもと、平成30年度用の教科書では修正して供給いたします。
先生方や生徒の皆さまにはご迷惑をおかけいたしますことを深くお詫び申し上げます。
ご指導の際には、ご留意くださいますようお願い申し上げます。

訂正箇所			誤	正
学年	頁	行		
1	289	1段3列「違」 の用例欄	差異	違反
2	28	2	一九三七（昭和一二）年一	一九三七（昭和一二）年一 二〇一五（平成二七）年。
	294	3段5列「搭」 の部首	土	土

※弊社Webサイトにも掲載しております。 <http://tb.sanseido.co.jp>

デジタル教科書のご紹介

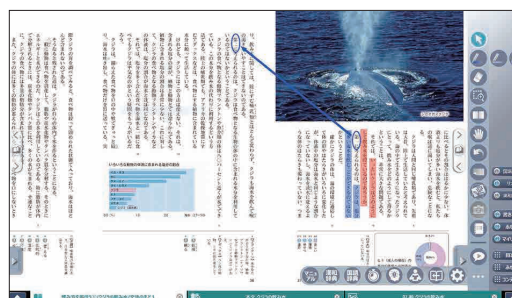


"使いやすさ"を追求しました。

シンプルな操作方法、コンテンツの呼出し方を重視し、先生方が操作に迷わないよう配慮しました。朗読の音声やワークシートなどサポート教材も一挙収録。日々の授業にてご活用いただけます。

授業の幅を広げる追加の資料や素材を多数収録しました。

学習者の興味関心を広げる資料や素材を充実させました。古典の知識や漢字の学習のために、反復練習に役立つフラッシュカードも収録しました。授業のアクセントとして、効果的にご活用いただけます。



平成28年度版『現代の国語』指導者用デジタル教科書 校内フリーライセンス

〈教科書利用期間一括ライセンス〉80,000円＋税 〈年間ライセンス〉24,000円＋税
※校内のすべての端末にインストール可能（DVD-ROM / ダウンロード：iOS版はダウンロードのみ）です。なお、価格は1学年の価格です。

動作環境や導入にあたっての条件等はCoNETSのWebサイトにて最新の情報をご確認ください。
<http://www.conets.jp/>

誤解されやすい 方言小辞典

東京のきつねが大阪でたぬきにばける

「いたい（熱い）お茶」「お祭りにはまった（参加した）」のように、地域特有の表現をもつ181の言葉をイラストもまじえ楽しく解説。学校方言や食の方言、交通安全・防犯対策で活躍する方言などのコラムも掲載。身近な言葉が実は方言だったと気づくおもしろさを味わえる一冊。

篠崎晃一 著
2017年 四六判 224ページ 1,300円＋税
ISBN 978-4-385-36444-5



新明解 故事ことわざ辞典 第二版



三省堂編修所 編
2016年
B6判 864ページ 3,000円＋税
ISBN 978-4-385-13988-3

夢みる昭和語



女性建築技術者の会 編著
2017年
四六判 352ページ 1,900円＋税
ISBN 978-4-385-36069-0

高校国語科授業の 実践的提案



三浦和尚 著
2017年 A5判 160ページ 2,200円＋税
ISBN 978-4-385-36115-4

小学校から高等学校までの国語科教育に精通した著者の研究の集大成となる授業提案。具体例を豊富に用いながら、教師の力量を形成する授業研究のあり方を追究する。本書掲載の授業の動画をインターネットにて配信中。

株式会社三省堂

☞「教科書・教材サイト」<http://tb.sanseido.co.jp>

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 03-3230-9411(編集)・9412(営業)

- 大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 06-6341-2177
- 名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F 052-953-9211
- 九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 092-531-1531
- 札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F 011-616-8722